
第92回関西スペイン語教授法ワークショップ(TADESKA)開催の報告

XCII Reunión del Taller de Didáctica de Español de Kansai

日時：2015年10月3日(土) 10:30 - 12:30

場所：関西学院大学梅田キャンパス(ハブスクエア)1002教室

担当者：吉野達也

「講読：La nueva gramática básica de la lengua española 第II章『語』 IIa『品詞と種類』 第6節『名詞』 pp.61-68

* Fecha y hora: sábado, 3 de octubre de 2015, de 10:30 a 12:30

* Lugar: Universidad Kwansei Gakuin, Campus de Umeda "K.G. Hub Square", Aula 1002

* Encargada: Tatsuya Yoshino

* Lectura: "La nueva gramática básica de la lengua española. Apartado 6: El sustantivo"

第6章 名詞(El sustantivo) (pp.61-68)

定義(definición) (p.61)

名詞は形態論(morfológicos)、統語論(sintácticos)や意味論(semánticos)の基準で定義された、語彙範疇である：

a) 形態論の観点から見ると名詞は性や数を持ち、派生や複合の形態論的プロセスに関与する。

派生：

(antebrazo(前腕)、contraataque(反撃)、deducción(推論)、subida(上り坂)、virgencita(マリア様))

複合：

(corta-césped (芝刈り機)、porta-lámparas(ソケット))

b) 統語論の観点から見ると、主語(Los niños juegan en el jardín.)や直接補語(Vimos esa película ayer.)のような統語的機能を担える名詞グループを形成する

c) 意味論の観点から見ると、概念的にさまざまなものを表せる：

個体(casa, coche)、団体(familia, profesorado)、物質(agua, arena)、質あるいは感情(amor, inteligencia)、出来事または行事(hundimiento, representación)、関係(matrimonio)、場所(montaña, plaza)、時期(siglo, víspera)など

名詞の種類(clases de nombres) (p.61)

名詞の範疇には多数のサブグループまたは名詞的な分類がある。

①主な分類は普通名詞か固有名詞

②普通名詞は可算か不可算か(contables / no contables)、個別か集合か(individuales / colectivos)、具体か抽象か(concretos / abstractos)といった基準によって細かく分類。

③新たな分類：

項的補語(complemento argumental)をとる名詞、出来事的(eventivos)名詞、数量化(cuantificativos)名詞や分類的(clasificativos)名詞

普通名詞と固有名詞(nombres comunes y propios) (p.62)

意味論、形態、統語の属性によって以下のように区別される。

意味論の差異(diferencias semánticas) (p.62)

「普通名詞の特徴」

①普通名詞はひとつの分類の中の全ての個体を指せるし、同じ意味的側面を共有するものの集合も指せる。

人に関する名詞(agricultor, niño)、動物(jirafa, perro)、物(carro, libro)や他のすべての存在(entidad)(質、行為、関係、出来事: asalto, maldad, paternidad, victoria など)。

②普通名詞は辞書において特徴の集まりで定義される。

子供(niño)という名詞は“人間(ser humano)”、“若い年齢(de corta edad)”という意味が包含されている。この意味概念のまとまりは伝統的に内包(intensión)と呼ばれている。

③同じ意味を兼ね備えるもの全体で、外延(extensión)あるいは指示[対象の]類(clase designativa)と呼ばれるグループを形成している。

例えば牝牛(vaca)の意味は animal, bovino, adulto, hembra といった特徴を持つ全てのものを含んだ指示[対象の]類を形成する。

④普通名詞は意味を持つため、上位語(hiperonimia)と下位語(hiponimia)の関係(pájaro は quetzal の上位語であり、quetzal は pájaro の下位語である)や同義語の関係、さらには反意の関係性(ascenso は descenso の反語である)も持つことがある。

⑤普通名詞は他言語にも翻訳される(ある定義をもって“そのように名づけよう”決められた名詞)。

命名機能(función denominativa)も持っている(Este animal se llama ornitorrinco(カモノハシ))。

「固有名詞の特徴」

①固有名詞(nombre propio)もまた命名的価値(valor denominativo)を持ち、それによって個別のものに名前を付与する役割を果たしている。

(Esta niña se llama Clara.) Aconcagua, Carlos, Cuba や Lima といった名詞に意味特徴はないため、意味が欠如する。だから辞書にも載らない。

②固有名詞は内包を兼ね備えておらず、結果として外延も欠如している。

(Pedro や Amazonas といった名詞は似たような要素から成るまとまりの一部にはなれない。)

③固有名詞同士ではまた普通名詞同士にみられるような語彙的關係性(上位語(hiperonimia)、下位語(hiponimia)、類義語(sinonimia)、反義語(antonimia)あるいは同義語(homonimia))を構築しない。

④ある言語の固有名詞は他の言語の固有名詞に語源的に(etimológica)対応するものを持つ可能性はある(Giovanni, Iván, Jean, John, Juan など)が、それは翻訳ではない。

⑤普通名詞は総称的にある分類を表す(hombre は人間を含む集合を指す)が、それ自身は個別のものを識別する機能を有していない。そのためには限定詞が必要(este hombre, nuestro hombre, un hombre)。

⑥固有名詞はそれ自身が指示的表現(expresiones refenciales)である。

個を指すために限定詞は必要無い。Atacama, Bolivar や Nicaragua などこの種の名詞は具体的なものを指している。

統語論的差異(diferencias sintácticas) (p.63)

普通名詞や固有名詞の統語論的振る舞いは、部分的に意味論や指示的用法から推測される。限定詞のない普通名詞は、指示機能を持った名詞句を要求する様な位置(例えば動詞の前の主語)には来ない。

Sujeto(主部)				Predicado(述部)
niña	esa niña	ella	Claudia	tose
女の子は	その女の子は	彼女は	クラウディアは	咳をする

月名の名詞は小文字で表記するが、唯一無二という考えによって統合される固有名詞に類似しているという理由で、冠詞をつけることが出来ない(No me gusta abril.)。いくつかの家族の語彙(mamá, papá)も限定詞(determinantes)なしで指示的表現を構成することができる(Aún no ha llegado papá.)。

普通名詞は意味の広がり制限する修飾部(modificador)を受け入れる。例えば、名詞「農業従事者(agricultor)」の指示[対象の]類は、限定詞や特定の補語によってその範囲が切り取られる (este agricultor, el agricultor neolítico(新石器時代の), el agricultor de nuestra zona). 固有名詞は前述のような外延がなく、修飾部を受け入れない(*Alba inteligente(Alba が固有名詞だからダメ), la niña inteligente(niña は普通名詞だから OK), *Oslo frío(Oslo は固有名詞だからダメ), la ciudad fría(ciudad は普通名詞だから OK))。しかし一方で固有名詞は特徴形容詞(los epítetos) (雷が鳴る土星(Júpiter tonante))のように、ある一面を強調する時には修飾部をつけることも可能。限定詞や制限的修飾部を使うことで固有名詞は普通名詞に似る(el Buenos Aires de los años veinte, el Leonardo inventor)。

固有名詞の種類(clases de nombres propios) (p.63)

- ① 性質や指示対象(referente)の特徴によって分類。
例えば洗礼名(nombres de pila)、愛称(hipocorísticos) (Lupe)、苗字やあだ名(sobrenombre) (Azorín, Faraona)も含め人名(antropónimos)や、動物の固有名詞(Babieca(バビエカ, El Cid に登場する馬の名前), Bucéfalo(ブケファロス, Alejandro 大王の馬の名前), や場所の名前 (América, Costa Rica, Jalisco, Florida, Santiago, Orinoco) も存在する。
- ② 固有名詞と同じような特徴を持つ名詞 (句)。
祭りごとあるいは記念日(la Ascensión(昇天祭)、天体(Marte(火星))、寓意表現(la Muerte(死神))、作品名(Hamlet)、団体名(Lolita Rubial)、修道会(Santa Clara)、企業名(El Mercurio de Antofagasta)、チーム名(Club Deportivo Istmeño) 、法人(Real Académica Española) など
- ③ 冠詞の使い方によってニュアンスが変化。
典型的に冠詞なしで構成されるものの、地名固有名詞の中には定冠詞が必ず付加されるもの(El Cairo, La Habana)がある一方、任意としてつけられるもの((el) Perú, (el) Uruguay) もある。地名でない固有名詞の中には冠詞の有無に選択性がある場合もある(Ya es Navidad (もうクリスマスだ。), Ya llega la Navidad (もうすぐクリスマスだ。)) 山や川の名前には冠詞がつけられる(los Andes, el Orinoco)。

地名が冠詞を含む場合、冠詞は大文字で表記される。冠詞なしでは正しい表記とは判断されない(Viajaré a El Salvador. (a Salvador はダメ))。冠詞の追加が任意の場合は、小文字で記載し、公式な表記の際には義務とされる(República del Perú) 。

可算名詞と不可算名詞(sustantivos contables y no contables) (p.64)

特徴

普通名詞の基礎的区別は可算名詞と不可算名詞の違いにある。

- a) 可算名詞は数えられるものごと (tres planetas, cuatro formas de proceder)を示す。
- b) 不可算名詞は長さや重さの規模によって規定できるが、数えることができない。通常、それ自身でなくならずに分けることのできる物質を指示する。半分の水(la mitad del agua) も水(agua)である。可算名詞ではそうならない。一脚の椅子の半分(la mitad de una silla)は椅子(una silla)ではない。物質を示す語(aire, comida, sangre)の他、性質に関わる名詞(altura, inteligencia, pereza)や感情(amor, entusiasmo, rabia)などの概念が不可算名詞に属する。

文法上の差異(diferencias gramaticales) (p.64)

①可算名詞は単数形もしくは複数形で用いられる。

単数形(una casa, mi amigo, esta familia)、複数形(actitudes, tres mesas, varios libros, muchos viajes)

②不可算名詞はたいてい単数形(mucha agua, tanto esfuerzo, alegría)で構成される。複数であらわすときは、数の複数を意味しているのではなく、文体上の価値(agua – aguas, tierra – tierras, nieve – nieves, cielo – cielos)を持つ。

③複数形にすることで[本来の]不可算名詞を可算名詞の類に入れることもできる(pelo – pelos, café – cafés, vino – vinos, pan – panes)。

④不可算名詞は、複数形の可算名詞と同様の統語環境にも用いられ、可算名詞と同様のふるまいをすることもある。例えば reunir monedas, reunir dinero のように動詞「reunir (収集する)」の補語、あるいは entre la hierba, entre los prados (*entre el prado はダメ)のように前置詞「entre (～の間に)」の目的語となりうる。

⑤数量辞や基数との関係

不可算名詞は mucho, poco, bastante, demasiado, tanto, cuanto, harto などといった数量辞(cuantificadores)と使うことができるものの、数量辞の varios や形容詞 medio や基数(los numerales cardinales)と両立させることは不可能である。一方、可算名詞は tres libros, varios detalles, media manzana のように両立が可能である。(*tres paciencias, *varias arenas, *medio vino はダメ)

種類の変化(cambios de clase) (p.65)

多くの不可算名詞は可算名詞に変化することもある。指し示す意味が次のように変わる。

a) 種類や型(clase o tipo):

He probado muchas aguas. (私はたくさんの水を試飲した。)(つまり、たくさんの種類の水を)

Escribe con varias tintas. (彼はいろいろなインクで書く。)

Se utilizan distintas gasolinas. (異なるガソリンが使われる。)

b) 個物や単位(individuos o unidades):

un corcho (1つのコルク栓), un cristal (1つのガラス器), un papel (1枚の紙)

c) 飲食物を表す方法 (度量衡、切り分けたものなど)

café / dos cafés (コーヒー[物質]/2杯のコーヒー)

可算名詞から不可算名詞への変換はずっと頻度が少ない。質的变化を与える (Me parece que es mucho auto para

ti. 君にとっては(収入の割に) 度が過ぎる車だと私は思う。)こともあるが、より一般的なのは *Aquí hay mucho auto.*(ここにたくさんの車がある)のような量的表現である。いずれの場合も、なんらかの表現上の効果(しばしば皮肉)の意味解釈を生む。

個別・集合名詞(sustantivos individuales y colectivos) (p.65)

特徴 (p.65)

①個別名詞(sustantivos individuales)は、単数の存在物(*barco, oveja, profesor*)を指示する。その名詞の外延に含まれるものであれば何でもその名詞で呼ばれうる。例えば、名詞 *barco* (船) は全ての船[という種類のもの]に含まれるいかなるものも表しうる。

②集合名詞(sustantivos colectivos)は、同じ本質であるような存在物(*seres*)の集合体を単数形で示す。*flota*(船団)は *conjunto de barcos* (船の集合体)、*profesorado*((集合的)教員)は *profesores*(教員たち)で構成される類である。

③集合体を指す語は、複数の同じ名詞の連結によって示されるものの総体と解釈される。

flota(商船) *barco + barco + barco*

bandada((鳥や魚の)群れ) *pájaro + pájaro + pájaro*

banco(魚群) *pez + pez + pez*

語彙的集合名詞と形態的集合名詞(colectivos léxicos y colectivos morfológicos) (p.66)

形式から見ると、集合名詞には2つの異なる型がある。

a) 語彙的集合名詞(colectivos léxicos):

集合を表現するような形態的構造を持たない。*familia*(家族), *manada*(動物の群れ), *rebaño*(羊の群れ)。

b) 形態的集合名詞(colectivos morfológicos):

以下の下線が引かれた部分のように、集合を表す接尾辞(*sufijo*)と共に形成される。*trompeterío*[sic](トランペット類)¹, *chiquillería*(大勢の子供たち), *muestrario*(見本集), *arboleda*(雑木林), *yeguada*(馬の群れ), *alumnado*(学生たち), *pedregal*(石の多い土地), *pinar*(松林)

文法的差異(diferencias gramaticales) (p.66)

集合名詞は個別名詞とは異なるいくつかの特徴を持っている。これらのふるまいはその意味の特性に基礎が置かれている。

a) 「複数」の概念を語彙的に表現する形容詞 (*numeroso, nutrido, cuantioso*)と組み合わせられることが多い。*(audiencia, banda, comitiva, documentación, familia, generación, plantilla など) + numerosa*。

¹ *DRAE* などの辞書では *trompetería* という語しかないがインターネットでは *trompeterío* という語もごくわずかだがヒットする。

b)動詞「reunir (集める)」は、複数を示す補語を選ぶ。したがって、単数形の集合名詞を許容する(Reunieron a {la familia ~ el profesorado})。しかし、個別名詞の単数形は許容しない(*Reunió el zapato)。

c)前置詞「entre (～の間に)」は、(entre los niños, entre Santiago y Martín) など複数性を指し示す語とともに用いられる。したがって、いくつかの不可算名詞を除いて、個別名詞の単数形を許容しない(*entre Martín)。しかし、単数形の集合名詞は許容する。entre + {la población ~ la gente}。

d)多くの集合名詞は「名詞 + de + 名詞」という構造を許容する。前置詞の補語はそのグループの構成要素となっている (限定詞なしの)名詞である。una bandada de pájaros(鳥の群れ), una familia de gorilas(ゴリラの一家族), una escuadra de cañoneras(砲艦の艦隊), un ejército de infantes(歩兵隊), un piquete de huelguistas(ストライキ参加者らのピケ), una manada de jabalíes (イノシシの一つの群れ)

・集合名詞の持つ複数性という考えによって動詞の数が複数形になっていることもあるが、数の一致は単数形で行うほうがより適切である。したがって次のような構造は避けるのが好ましい。Toda la familia iban de vacaciones. 適切な使い方は Toda la familia iba de vacaciones. である。

・La pareja comunicó a la prensa que se sienten muy felices.のような構造もその例外ではない。なぜなら、siente には[この場合]暗黙に複数の意味が入っていると理解できるからである。

・集合名詞の単数を先行詞(antecedente)とする場合、Se recurrió al jurado del concurso, quienes no se comportaron de forma profesional.のように関係代名詞の複数形(quienes, los cuales)は避けるのが好ましい

集合名詞が数えられる名詞であるように解釈されることもある。この場合、意味上の変化が起こる。つまり、集合名詞が数量を表す語となり、次の例の右側の[集合]名詞のように muchos や cuántos に置換可能となる。

un ejército de lanceros (1 隊の槍騎兵) un ejército de periodistas (新聞記者の群れ、たくさんの新聞記者)
un enjambre de abejas (ミツバチの一群) un enjambre de curiosos (野次馬の群れ、たくさんの野次馬)

抽象名詞と具体名詞(sustantivos abstractos y concretos) (p.67)

抽象名詞はたいてい、人や動物、物事(amor, belleza, reproducción) の行為や作用、プロセス、性質を表すものであり、五感で捉えることは通常不可能なものである。具体名詞は árbol, aroma, centauro, tierra のように、五感で感知するか心的に表象できる現実もしくは想像上の物を示す。

形態論(morfológico)の観点から見ると、抽象名詞のいくつかの種類は境界を定めることができる。例えば、-miento や -ción などの接尾辞(sufijos)と共に作られる行為・作用の名詞は抽象名詞である(atrevimiento(大胆さ), traducción)。性質を含む抽象名詞としては、-eza, -ura, -itud といった接尾辞を含むものがある(belleza, locura, pulcritud(清潔さ))。複数化するとき、抽象名詞は通常具体名詞へと変わる。locura(狂気、狂った状態)、locuras(狂人の言動)。

項補語の[=を取る]名詞(sustantivos de complemento argumental) (p.67)

このような名詞は、その意味が特定の補語を要求する。次のような名詞である。

a)血縁関係(hijo, padre, suegro)、あるいは社会関係(amigo, vecino)などをあらわす名詞。このグループには表象の

名詞(los nombres de representación) (cuadro, foto)も属する。多くの項補語の名詞は前置詞“de”と共に構成される(una foto de María)が、別の前置詞も可能である(la excursión al río.)。

b)動詞から派生した名詞で、特に行為・作用を意味するもの (la destrucción de Roma: ローマを破壊するという行為)がある。これらの名詞(度々名詞化(nominalizaciones)と呼ばれる)の多くは、動詞と同様の組み合わせ方を保持する。例えば、以下の例文では concedió と派生語 concesión(授与)は同じ統語論のグループで結びつく。

El Gobierno^① concedió un premio^② a este investigador^③. (政府はこの研究者に賞を授与した。)

La concesión de un premio^② a este investigador^③ por el Gobierno^①. (政府によるこの研究者への賞の授与)

多くの名詞は項ではない補語とともに構造を作る(la mesa de papá:お父さんの机)。つまり、名詞によって義務的に選ばれるのではないような補語とともに構造を作る²。

名詞のその他の意味的分類 (otras clases semánticas de sustantivos) (p.68)

出来事を表す名詞(sustantivos eventivos o de suceso)

ある時間に生じる出来事を示す。この名詞グループには accidente, batalla, reunión, clase, concierto, manifestación など多数存在する。これらの名詞のいくつかは出来事だけでなく物体も示しうる (La conferencia estaba en el maletín.講演会[の原稿・資料]はアタッシュケースにあった。)

数量を表現する名詞(nombres cuantificativos)

なんらかの物質の、切り離されたり区切られた量を指すが(una rebanada(枚) de pan)、抽象的規模(magnitud abstracta)も受け入れる (un ápice de sensatez (ほんの少しの良識))。取り決められた尺度(un litro de vino, un kilo de papas)や個体の集合体(un grupo de amigos, dos fajos(2束) de billetes)を指すこともできる。

kilo, montón, porción あるいは trozo(断片)のようにいつも量的表現として用いられるものがある。一方で、物質も指すものもある。例えば, copa は beber una copa de vino.(一杯のワイン)では数量を表す名詞である。しかし romper una copa de vino. (ワイングラスを壊す) の場合はそれに該当しない。

分類あるいは種類の名詞(nombres clasificativos o de clase)

これらの名詞(clase, especie, suerte, tipo)は種類の概念を含み、不定冠詞の un と前置詞の de と共に表現を構築する(una clase de)。話者が言及する実体が前置詞に後続する名詞によって示される概念と似ていることを示す[場合がある]³。una especie de submarino (潜水艦のようなもの) は潜水艦に似ている物体を指し、una suerte de monasterio(修道院のようなもの)では、なんらかの点で修道院に似た建築物を指す。

² たとえば concesión (授与) という名詞については、「誰に」「何を」という要素 (=項) がないと、「授与する」という行為そのものが成立しない。しかし、mesa (机) については、そのような要素なしで「机」として意味をなす。de papá は話者が任意に付加した補語である。

³ “una especie de...”などの表現が常に類似物を表すのではなく、類似物を表す場合がある、と解釈する方が自然と思われる。